

第 13 回葉山町子ども・子育て会議 議事要旨

- 1 開催日時  
平成 27 年 10 月 15 日（木）10 時～12 時 00 分
- 2 開催場所  
葉山町役場 3 階 協議会室 2
- 3 開催形態  
公開（傍聴者なし）
- 4 出席者  
委員 15 名出席（定足数〇）。  
欠席 5 名（角井委員、羽田委員、倉上委員、菅原委員、小林委員）。
- 5 議事（事務局メモ）
  - (1) 開会  
(事務局)
    - ・ 新委員（平野委員、多田委員）の紹介。
    - ・ 傍聴について確認。
    - ・ 審議会の役割・確認。
    - ・ 資料の確認。
  - (2) 前回の確認  
(事務局)
    - 一般の方への勉強会のスケジュールや継続に関する確認をした。
    - コンシェルジュや全児童向けの学童の引き続きの検討、スケジュールなどの意見をいただいた。
    - 地域子ども子育て 1 3 事業の具体的な町の取り組みはどのようになっているのか意見の報告。コンシェルジュや全児童向けの学童について町が検討したい内容を資料に纏めた。
    - 保育園の整備状況を説明し、8 月 1 日からおひさま保育室が認可保育所になった。9 月 1 日から葉山ぎんのすず保育園が認可保育所として開所した報告。
  - (3) 議題
    - ① 新制度に係る教育・保育の量の見込み「確保方策」について（資料 1）

(事務局)

- 認定こども園、幼稚園、認可保育所等の施設数の報告。見込量については昨年のニーズ調査の結果などを踏まえ決めている。
- 町の状況は幼稚園の需要が60%を超えており、認可保育所24%、預かり保育は7.5%となっている。この計画は国の指針により策定しており、確保方策945人は新制度へ移行していない幼稚園も含み計上している。
- 町内の幼稚園は全て新制度へ移行はしていない。来年度も新制度へ移行する幼稚園はない。ただし、5年以内に新制度へ移行する予定は3園ある。確保方策は定員数を記載しているので実際の児童数とは異ってくる。
- 小規模保育を利用している方は11人(3号)。2号の利用は10人実施している。
- 平成27年度の実施状況は、認可保育所新設1か所、認可外保育所から認可保育所への移行が1か所、認可外保育所から小規模保育所への移行1か所あった。平成27年度は計画通りとなっている。

(委員) 1号、2号、3号とは何か？

→ 1号は3歳以上で幼稚園に行っている子、2号は3歳以上で保育所に行っている子、3号は3歳未満で保育所へ行っている子である。

(委員) 確保方策の数字はニーズ調査か実際の数字なのか？

→ 幼稚園、保育園の定員数を記載している。

(委員) ニーズ調査した時の人数はどのくらいなのか？

→ 見込量がニーズ調査の数字である。見込みの数は実際より多い数字になっている。5年以内に計画の数字の見直しがあるかもしれない。

(委員) 3歳以上の幼稚園の子が500人台で確保方策は900人台と言うことは、残りの400人分は他市町村からの受け入れになるのか。

→ 他市町村から町内の幼稚園を利用する方が多くなっている。今年の幼稚園利用者は517人になっている。

- ② 新制度に係る地域子ども・子育て支援事業の量の見込み「確保方策」について(資料2)

(事務局)

- 13事業の今後5年間の量の見込みと確保方策について記載している。計画では見込量に対し、31年度までにプラスになることを目量に策定している。
- 利用者支援事業については、対応案として当面は子育て支援センター「ぽけっと」で対応し、平成27年度以降はより良い事業の実施について検討を行う。
- 地域子育て支援拠点事業の平成27年度の対応状況は、児童館、青少年会館の指導員が「ぽけっと」で研修を行い、ひろば事業等の情報交換を行い、充実したひろば事業等を提供していく。12月から2月の間に研修を行う予定になっている。
- 妊婦健康診査の対応状況は、従来通りの事業の実施をしている。乳児家庭全戸訪問事業の対応状況は、従来通りの事業の実施をしている。養育支援家庭訪問事業の対応状況は、養育の支援が必要な家庭を訪問し養育に必要な助言、指導等を行っている。こちらも従来通りの事業の実施をしている。
- 子育て短期支援事業の対応状況は、児童相談所の一時保護等で対応しており町の事業としては対応していない。
- ファミリーサポートセンター事業の対応状況は、支援会員と依頼会員との調整が難しく、支援会員の確保が課題になっている。10月に保育サポーター養成講座を実施予定で11人が受講予定である。
- 一時預かり事業の対応状況は、幼稚園と保育園の調整はこれからだが、3園の幼稚園で一時預かり事業を行っている。長期休みの一時預かりを2園の幼稚園が行っている。
- 延長保育事業の対応状況は、現行の延長保育事業を実施している。病児病後児保育の対応状況は、従来通りファミリーサポートセンターで病後児保育を実施している。今後は、費用対効果を踏まえ病児保育の検討をしていく。
- 放課後児童健全育成事業の対応状況は、10月1日から一色小学校新館で学童クラブを開設した。
- 今後の対応状況は、このワークシートを追記していく形で示していく。

③子ども・子育て会議で検討していきたい事項について（資料3）

●利用者支援事業、地域子育て支援拠点事業のあり方について

(事務局)

- 資料3の作り方だが、左側に最終報告を答申した事項を記載、真中に最終報告した今後の方向性を記載、右側に最終報告に対しての町の課題、子ども子育て会議で検討する内容を記載してある。
- P1の子ども子育て会議で検討する項目以外の詳細については記載してい

ない。

○P2の検討する項目について詳細を記載している。(1)利用者支援事業、地域子育て支援拠点事業のあり方、(3)一時預かり事業に町の課題と子ども子育て会議で検討する内容を記載してある。

○(1)利用者支援事業、地域子育て支援拠点事業のあり方について説明する。参考資料4は新制度や13事業の全体像や概要などを記載した。利用者支援事業は、町では行っていないが子育て支援センター「ぽけっと」で相談支援を行っている。相談件数も毎年度増えている。子ども育成課の窓口でも「葉みんぐ」を使い、子育てに関する相談や施設の案内などを行っている。その中で限られた資源を活用しながらこの事業を行っていくためにどうしたらいいのかを委員から意見をいただきたい。

○地域子育て支援拠点事業は、子育て支援センター「ぽけっと」で行っており、新たに子ども子育て支援センターを開設することは難しい状況の中で限られた資源を活用しながらこの事業を行っていくためにどうしたらいいのかを同じように委員から意見をいただきたい。

(委員)

●子育て支援センター「ぽけっと」の子育て相談、利用状況などの現状報告  
→ 子育て支援センター「ぽけっと」は親子が遊びにくるひろばと一時預かりと相談を行っている3つスペースがある。また、ファミリーサポートセンターの事務局がある。ひろばに遊びに来る親子が少しずつ先生や他の親子と信頼関係を結び、そこから子どもの様子や関わりを理解している。0歳児の集いを行っているが、保護者の心配することなどのちょっとした相談を一人ひとり聞いているうちに、保護者も安心できたり、心が落ち着いたり、または相談支援に繋がることもある。週1回の0歳児の集いが定着していて保護者も悩んでいるのは自分だけではないんだと思ったり、相談できる人がいるんだと思って心強くなっていく保護者がいることを実感している。ひろばなどに一緒に参加している保護者同士も仲良くなっているので心強くなっていると思う。子育てプログラムも行っており、参加者は子どものことだけではなく、養育支援に関する話ができる。また、そのプログラムが全て終了しても、参加者の保護者同士が集まり地域の繋がりができていくようになっている。人との付き合いが苦手な保護者もいるので、そのような保護者たちのためにも子育て支援センターはあると思っていて職員も支援している。2、3年「ぽけっと」に通い幼稚園などの最初の進路選びの相談を受けることも多い。毎年、幼稚園保育園特集号を作成し、利用してもらっている。保護者も一人で行うのではなく、いろいろな人と関わっていくことを支援していきたい。

(委員) 子育て支援センター「ぽけっと」で相談をお願いした場合、費用はかかるのか。

→ 相談については無料。ひろばの中で相談を受けることもあるが、深刻なことは、別室で相談を受けることもある。

(委員) 利用者支援事業は横浜市が行っている保育コンシェルジュがあるが現場はかなり難しい思いがある。保育所の案内だけで終わっていて親のニーズに合っていないと聴いている。利用者支援事業は、子育て中の親がいろいろな施設や機関を利用しやすい環境づくりを提供できる支援だと思う。利用者支援事業は「ぽけっと」や役場窓口で行っている相談支援とは違うものだと思っている。たくさんの施設などを案内できる人がいて利用する施設までたどりつける支援をできることが利用者支援事業だと思っている。それぞれの地域で特色があると思う。横浜市では利用者支援事業に対し、あり方検討委員会を立ち上げている。町のように小さいところは、1か所でいろいろな所に繋がる方がいいことだと思う。親のニーズが希望の幼稚園保育園に入園することだけでなく自主保育や子育て支援団体など自分たちも活動する場を求めていることが多いと思うので幅広く支援できる事業があればいいと思う。地域子育て支援拠点事業については、主任児童員として長柄、木古庭、下山口を担当しているが、長柄下の方から「ぽけっと」に行けない、葉桜児童館は上の団地にあるのでベビーカーで行きづらいなどの意見があり長柄下や木古庭の方が来やすい、子育てひろばの場所が求められている。例えば、建設中の道の駅の一室で週1回でもいいので、ひろばを行うことができればいいと思う。

(委員) 児童館や保育園や小学校など資源はたくさんある中で新しく建設する必要はないと思う。いまある資源をうまく使えば問題は解決すると思う。ただ、人の問題もあると思う。相談を受けるにしても、専門性が必要な場合もあり、簡単に相談を受けられないこともあると思う。町では巡回相談を行っているので、保育園幼稚園だけでなく、町中を巡回し相談を受けるシステムがあればいいと思う。人と物と場所と予算をうまくみんな回せることを考えればいいと思う。

(委員) 「ぽけっと」は素晴らしい場所だと思うので、関係機関とのつなぎ役を担い、裾野が広がればもっと素晴らしくなる。また、長柄下にひろばなどを行うスペースができれば、上山口の方も来れ、いいと思うので期待したいと思う。

(委員) 「ぼけっと」のスタッフの人数などをしりたい。

→ 職員は、一時預かり事業、ファミリーサポート、ひろば、相談事業を行う担当に分かれていて18人です。資格は保育士、相談員(スーパーバイザー)などいる。

#### ④一時預かり事業の拡充、ファミリー・サポート・センターについて (事務局)

○ファミリーサポートセンターの支援会員と依頼会員のマッチングがうまくできず活動できていない支援会員が多数いる。「年々依頼会員は増えているが支援会員とのマッチングがうまくいかず活動している支援会員が限られている」などの現状があり活動できていない支援会員が活動できるようにするには、どんな方法などがあるか検討していただきたい。

(委員)

#### ●子育て支援センター「ぼけっと」で行っている、一時預かり、ファミリーサポートセンターの現状報告

→ 一時預かりは、相談を受けながら子どもを預かったり、少し子どもと離れる時間がほしいなどの相談から一時預かりに繋げることもある。利用される理由は様々である。ただ、キャンセル待ちの方が多く状況でもある。年度当初は幼稚園や保育園に入って空いている時期だが、夏休みなどの長期休みになると利用が増えてくる。緊急枠も設けている。待機児童の子ども利用が3割ぐらいいて毎日利用しているので利用料にかなりの負担がかかる。また、就労が理由で預かれないと仕事に影響が出てしまうのでなるべく預かるようにしている。預かれない場合は、ファミリーサポートセンターに繋いだりしている。ファミリーサポートセンターについては、依頼会員が515人、支援会員が135人、休止している支援会員43人、活動できる支援会員92人いるが実際に連絡すると仕事を始めた方や活動できない方がいて活動できる支援会員は92人より少ない。昨年度、活動した支援会員は51人になっている。最近多い依頼は、保育園幼稚園の送迎や早朝、深夜の預かりが多い。難しい依頼も多いのでフルに活動している支援会員は少ないと思う。障害を持つ子どもの預かりなど依頼会員の子どもの負担が掛からないなどを考え、なるべく受けるようにしている。支援会員へのフォローアップ研修を行い、あまり活動していない支援会員にも参加してもらうようにしている。

(委員) 支援会員と依頼会員の地域的なことはうまくいかないこともあるのか。

→ 車が運転できない支援会員もいるので、できるだけ同じ地域の支援会員にお願いするようにしている。逆に依頼会員の自宅近くの依頼を嫌がる支援会員も

いるので、バランス良く柔軟に対応している。

(委員) ファミリーサポートセンターは子育て支援の最前線であると思っている。支援会員はボランティアなので支援会員をただ増やせばいいとも思わない。利用料が高く1時間700円又は900円であり、ひとり親家庭や生活保護世帯などにはかなりの負担である。近隣の鎌倉市、横須賀市、逗子市には利用料の助成制度がある。町でも検討が必要である。

(委員) ファミリーサポートセンターだけでなく、いきがい事業団や近所の方などもっと人の活用をして、1世帯に1サポーターがいるぐらいになる町の取り組みができれば理想である。

#### ⑤放課後児童クラブ（放課後子ども教室）のあり方について

(事務局)

○放課後児童クラブ、放課後子ども教室のあり方については、主に放課後子ども教室について検討していただきたい。町では放課後子ども教室は実施していない。10月に一色小学校の敷地内で民間の学童クラブを始めることができた。放課後子ども教室は学校の敷地内で行いたいが、今は学校休業日にグラウンドや体育館を地域へ貸し出すことは行っているが、余裕教室はない状況である。もし、学校敷地内で放課後子ども教室を行った場合、施設管理や事故の管理責任など行政と保護者と学校が連携し理解し協力していく体制が整っていないところが町の課題である。町の放課後子ども教室の実施場所や方法などのイメージを含め意見をいただきたい。

(委員) 一色小学校新館や上山口小学校旧校舎、葉山小学校第2音楽室を一般開放している。

(委員) 逗子市と同じ体制は難しいと思う。今の一般開放は予約しないと利用できないので、放課後1、2時間開放してくれるだけで、助かる親はかなりいると思う。

(委員) 下山口学童クラブまでの道のりが危ないので、学校敷地内で放課後子ども教室を行っていれば親も安心できる。見守りをボランティアにお願いして、事故などが起きても、そのボランティアに責任を押し付けることはしない。

(委員) 学校施設を予約して開放した場合は、何時まで開放しているのか？

- 町へ団体登録をしている町内会やスポーツチームの団体などへ開放している。生涯学習事業なので子どもから大人まで開放している。
- 風の子保育園の運動会で一色小学校のグラウンドを借りた。雨天のため、体育館も借りた。

(委員)長柄小学校は4時になると帰らないといけないので、その後、子どもたちは長柄の御霊神社で遊んでいる。グラウンドで5時まで遊ぶことができれば、かなり子どもたちも楽しめると思う。

→ 学校の管理者は校長で、その支障のない範囲で開放する窓口になっているのが生涯学習課である。平日のグラウンドは開放していない。平日の体育館の開放は生涯学習課が窓口になっている。学校教育と社会教育は協力はしているが相対することがある。

(委員)望んでいるゴールは5時までグラウンドで遊べるように開放してほしいと思っている。校長に直接話をすればいいのか？

→ 教育委員会に話をいただき、学校現場と話をしていくことになるだろう。

(委員)家に帰宅してから、学校で遊ぶには5時過ぎまで遊んでいいのか？

→ 生涯学習課では判断できないが、家に帰宅して遊びにくる子どもはいると思う。学校の細かいルールは分からない。

(委員)全児童が遊べるスペースは児童館では狭いと思うので、学校のスペースが必要だと思う。

(事務局)子ども子育て会議として理想している提言ができるので、その理想の形を町長へ投げかけることで子育てしやすい環境を提言し考えていくことを目指していきたい。本日の議論も次回の会議で検討してもらおうようにする。

(委員)地域子育て支援拠点事業のひろば事業のあり方で児童館と「ぽけっと」のひろばの内容は決めていることはなく、これからのひろば事業を考えていくことが必要と考える。児童館でもいろいろな保護者がいて相談を受けることもあり、ひろば事業についていろいろと意見をもらいたい。



(4) 子育て支援に関する勉強会について  
(委員)

- 12月6日(日) 10時~12時 会場 教育委員会研修室(会議室)
- 導入を30分くらいとし、委員による近隣市の取組みの話が20分、町の現状報告が10分。残りをグループワーク(意見交換)や発表にあてる。
- 事前に学童の取組みについて各事業者に調査し、資料を作成し当日配布。
- 委員が自主的に近隣市の学童を訪問調査。(横浜の学童等)
- 基本的には小学校未就学のお子さん、学童保育対象のお子さんをもつ保護者を対象とするが、中学生、高校生の保護者の参加及び一般の方も可。
- 広報啓発は、町広報誌、町内会回覧、ホームページ、学校へチラシ依頼等。

(5) その他  
(委員)

10月にスタートした学童クラブの現状報告

10月1日から学童ひだまりがスタートした。事前説明会も開催したが来年度の4月から利用したい新1年生が多かった。年度の途中からのスタートだと難しい。今は場所づくりをしている。

(6) 閉会  
(事務局)

今回は12月に予定しており、あらためて日程調整を行う。